

# 出来事ファイル (No.23-7)

## ■JR神戸駅～ハーバーロード周辺のまちづくり構想 最終版

長い間、JR神戸駅ハーバーロード周辺のまちづくりについてコンサルタントの根津昌彦氏が取り組んできたが、このほど「神戸の顔にふさわしい豊かさを感じる景観とにぎわいにあふれた空間の姿へ」がまとめられ、最終案として神戸市へ提出した。



「まちづくり構想図 最終案」より

## 令和4年度定期総会・懇親会ひらく

協議会では6月2日(金曜日)午後5時から、エスタシオン・デ・神戸を会場に、第32回定期総会を開催した。議長に奈良山会長を選出、事務局による令和4年度の事業報告・収支決算報告、鶴田監査役による監査報告、事務局から提出された令和5年度の事業計画案、収支予算案が承認され、定期総会の幕を閉じた。



懇親会であいさつする鶴田さん



会場風景

## ■もとまちハーバークリーン作戦

もとまちハーバー懇談会では6月7日(水)正午12時から、神戸駅東地域一帯のクリーン作戦を実施した。エスタシオン・デ・神戸から11名、ネットヨタ兵庫から21名、神戸ベルコ メモリエイトから5名の方々の参加がありました。

毎月、第1水曜日12時より、地域の企業様有志で実施しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。



エスタシオン・デ・神戸のみなさん



ネットヨタ兵庫



神戸ベルコのみなさん

## □読者プレゼント

観覧ご希望の方は、展覧会名と住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で2名の方にペア招待券を差し上げます。

## ◎花のお江戸ライブ

当時の江戸っ子が夢中になった様々なブームや日常の暮らしに寄り添った娯楽の数々をキーワードに後期浮世絵画壇を代表する喜多川歌麿、葛飾北斎などの浮世絵を展示します。



会場:神戸ファッション美術館  
電話:078-858-0050  
会期:7月8日(土)~8月27日(日)  
休館日:月曜日、7月18日(火) ※7月17日(月・祝)は開館

## ◎安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校

画家として独立する前の教員時代に着目し、多彩なジャンルの作品を学校の授業科目に見立てて紹介します。



「7」「かぞえてみよう」より 1975年  
©空想工房 画像提供:津和野町立安野光雅美術館

会場:明石市立文化博物館 電話:078-918-5400  
会期:7月22日(土)~8月27日(日)



栄町通まちづくり委員会は、6月9日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(石倉デザイン)石倉伸吾、(㈱KKテクノ)松本美紀、(けんしんサービス)井上知長、(神戸市都市局景観政策課)西尾俊広、(こうべまちづくり会館)木原正剛、(佐野運輸)入山隆憲、(神明倉庫)藤尾憲弘・大西登紀子、(神明ホールディングス)尾ノ上政徳、(兵庫県信用組合)井上博仁・藤本吉英・山本綾音、(広島銀行)曾我部真介、(新光明飾)藤田直之・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産)佐田野宏之以上、17名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



## 神戸元町 楽市楽座 情報 7月

### ◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

7月13日(木)~7月18日(火)第26回遊遊会水彩画展  
7月20日(木)~7月25日(火)ポア・ラクテ展(展示は21日13時~)

### ◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

6月24日(土)~7月 7日(金)「アシスタント」  
7月 1日(土)~7月 7日(金)「この小さな手」・「パラフィア・サークル」  
『夜のスカート』・「AFTER ME TOO」  
7月 1日(土)~7月14日(金)「山女」  
7月 8日(土)~7月14日(金)「薔薇の名前」  
7月 8日(土)~7月21日(金)  
『ぼくたちの哲学教室』・「メーサーロシュ・マルタ監督特集」  
7月15日(土)~7月21日(金)  
『緑の下のイミグレ』・「人形たち~Dear Dolls + BIRD WOMAN」  
7月22日(土)~7月28日(金)SILENT FILM LIVE【シリーズ20】  
7月22日(土)~8月 4日(金)特集「ヤン ヨンヒと家族の肖像」  
7月29日(土)~8月11日(金)新世代香港映画特集2023 ※8/5・6休映  
【予定は変更になる場合がございます。】

# みなと元町

# タウンニュース

# TOWN NEWS



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

## この辺りでサメが出るとこ知りませんか

まち活拠点まちラボ 今地 春乃

「この辺りでサメが出るとこ知りませんか」と街で聞かれたらどこを思い浮かべますか?ここで言うサメはB級サメ映画に登場するサメです。そのサメ映画が撮りたくて聞き込みをした際、いろんな答えを聞くことができました。豆腐屋さんの桶の中、カレー鍋の中、細い路地、高台の空き地、アーケードの魚影。思っているより街にサメはいるんです!そして、誰にだって街に出るサメを想像できるんです!それってすごいことだし面白いことじゃないですか!だから私はサメ映画を撮っています。ここに嘘はありませんが、100%でもありません。それは、私にとってサメ映画は今や外向きの趣味になってしまったからです。外向きの趣味があるからには内向きの趣味があります。音楽が外向きの人も内向きの人もいるだろうし、カメラが外向きの人も内向きの人もいるでしょう。ここでいう外向きは、対外的という意味です。承認欲求やコミュニケーションを求めた瞬間に外向きの要素が混じり出す気がします。最初の「この辺りでサメが出るとこ知りませんか」を投げかけた瞬間が、私にとってのサメ映画が外向きの趣味になった時です。私にとってその問いは「手伝ってくれませんか」と同じだったからです。その時から、趣味はサメ映画だと答えるようになりました。

## 面白いことって何や!

さて突然ですが、「なんか面白いこととしてよ」「面白いことないん?」「でっかいことしよ~よ」と言われる経験はありませんか。そういう時の面白いって、大体「話題性と集客力に富んで街に還元できてかつ社会的な意義もある楽しいイベント」だったり「若者による新しくITが駆使された画期的な事業」だったりしませんか。そういうのは広告代理店の人が日々考え抜いてくださっているのをお金を払ってお願いするのが正直一番早いと思います。じゃあなんで一市民に声をかけるのか、一緒にしたいからじゃないですか。なんかすごい人がすごいことしていったわ、よりも色々反省点はあるけど

みんなでやって楽しかった!がいいと思いませんか。でも、それにさっきのまどろっこしいことを付け加えるとなんかよくわからんしんどいやつになったりするから、サメ追いかけるくらいがいいと思います。自分が面白いと思うことにみんなを巻き込んでいきましょう。

## 外向きの趣味

「面白いことないの」に対する今の私の答えが先述したサメ映画です。それなりの熱意と展望が話せばこの話題もかわせるようになります。うまくいけば協力してもらえたり、友達が増えたり、基本的にはいいことの方が多いです。要するに、私はサメ映画を対外的に見栄えのいい道具として使っている面があります。ちょっと虚しくなる時はあるけど。その虚しさは自分だけの世界じゃなくなることだったり、労力が増えることだったり、ただ好きなだけだったはずなのにコミュニケーションの道具として使ってしまう罪悪感だったりします。好きなことを好きなようにやっているはずなのに、なんだか薄っぺらく感じてしまう。外を向けば果てがないからです。打っても響いたかわからないことの方が多し。そのくせ、外向きの方がパワーがあるので内向きの時間が減ってより薄っぺらくなっていく気がします。

ただ、外を向いているから街に関わっているのは事実です。内向きの趣味が滲み出して外向きに転じた人(いわゆるオタクとか)もいるでしょうが、私はそうはなれなかった。そうはなれないなり街への関わり方が外向きの趣味です。もちろん外を向いたから起きたいいいことだってあります。

## サメは街に出るか

サメはもちろん海の生き物なので、99%陸には出ません。だから形にするには技術が必要です。それを得るためにはどうしても外を向く必要がありますし、外を向いたから出会えた人たちがいるはず。私も聞き込みを続けたことで、サメを獲ってくれる漁師さんや、CGを使える男の子に会えた

しました。魔法のような技術を使う彼らは、私にとって魔法使いに他なりません。魔法使いがいるから、サメは街に出ます。

漁師さんや男の子みたいに、魔法のように現実してくれる人は案外近くにいます。好きなものを好きと言っていれば、やりたいことをやりたいと言いつつ続ければ、どうにかなったりします。言った上でその通りに走って行けばサメだって街に出るし、駅名だって変わるかもしれないし、中国茶がガブガブ飲めたりします。もちろん言ってるだけじゃ難しいけど。とにかく、外を向かないと始まらないし、外を向いた瞬間に始まったりします。外で誰かと繋がることで、1人の時よりもずっと頑張れたりします。と、思っています。

そして、私たちが誰かにとつての魔法使いになれるはず。最近始めてみたこと、昔やっていたこと、ちょっと気になっていること、全部誰かにとつての魔法になるはず。いつかは私も魔法使いになりたいです。まちラボが魔法使いとのマッチングセンターになればいいなと思っています。だからぜひ、皆さんの外向きの趣味や好きなこと教えてください。その一言でまた街にサメが放たれるわけです。

## サメCM撮りました

ということで、まずはCMから!まちラボのCMをサメ映画風に撮影しました。来館者さんの中に、サメが大好きなご家族がいらしたのでご家族総出で出演していただきました。元町商店街にサメが出るならこんな風がいいな、と目一杯夢とサメを詰め込んだので乞うご期待です!



CM撮影風景

# 海という名の本屋が消えた (116)

平野義昌

## 西村旅館(8)

「金曜」は第七号から総執筆者名を掲載している。途中で消えている人名もある。神戸市立中央図書館所蔵は第二十四号から三十四号まで欠本。二十三号と三十五号と見比べて増えた人名を挙げる。石橋湛山(「東洋経済」、政治家)、岩田英二(不明)、英雅和(43号にも「貰った手記(つづき)」寄稿)、江越千代子(歌人、賛助会員)、荻原井泉水(俳人)、河野資基(42号能楽評論寄稿)、小松清(フランス文学)、後藤夏子(賛助会員)、堺芳雄(44号短歌論寄稿)、中村幸彦(国文学)、パビア(C・S・パビアか?)、三木茂(植物学)、三淵震三郎(賛助会員、41号寄稿)。

第三十五号1951(昭和26)年12月15日発行。定価50円になっている。表紙の絵は田村孝之介(洋画家)。扉絵はフェリシアン・ロップスの「悲哀の聖母」(説明にフランス人とあるが、ベルギー人。フランス移住)。池長「怪物談話會」は閻魔、小野小町、楠木正成、ベートーベン、弁慶、布袋が神戸を散歩して、町の復興の様子や会員消息を語る。

第三十六号から三十九号も中央図書館欠本だが、大阪大学附属図書館のサイトで第三十七号を閲覧できる(註1)。1952(昭和27)年1月31日発行。表紙はかたつむりと植物の図柄(芋版)。「川島杜芳」とあるが、「川崎」の間違い、「川崎芳熊」のこと。第四十号も同じ絵ゆえ、三十八号・三十九号も同じだろう。扉はフランスの作家ゴンクール兄弟の蔵書票。51(昭和26)年9月サンフランシスコ講和条約締結、52年4月発効を受けて、勝山勝治「平和條約論議」と津田左右吉「講和後における日本人の覚悟」(「早稲田學報」51年9月号より転載)掲載。貫一「山口正造氏の思出」は戦前出版した『山口正造会見記』(註2)を転載。箱根富士屋ホテル経営者・山口を訪問した感想を後継者=息子・娘に伝える。貫一・マサ夫妻が有名ホテルの長所・短所、山口の人柄など、褒めるべきは褒め、批判すべきは批判する。「金曜雑誌」、金曜青年会館が協力者の手作りで完成間近のお知らせ。

第四十号同年4月25日発行。扉絵は英国女優テリー・エレン・アリシア(19世紀末舞台女優エレン・テリー・アリスと思われる)の蔵書票。池長「自画像」寄稿。南蛮美術コレクションに財産税が課せられ散逸の危機に陥る。既に多くの財産を処分していた。神戸市に美術品と池長美術館(のち南蛮美術館に改称)となる。現在美術館は「神戸市立博物館」に所蔵され、美術館建物は「神戸市文書館」となり郷土史資料を保存・展示する。

池長は、蒐集に必要なものはカネとヒマだけではない、と語る。熱意、永続、太っ腹、細心、それから勉強心、整理能力、身体丈夫、長寿で幸運、何より精神的バカ力、と。「金曜雑誌」が本誌継続の理由を挙げる。寄稿家の厚意は勿論だが、同時に月極の読者によって殆んど残本がなく、収支が安定していることが何よりの強み。

第四十一号同年5月23日発行。表紙絵は小磯良平に交代。扉はモーリス・ヒューレー(ヒューレット、19世紀英国作家)の蔵書票。勝山「再軍備」、杜芳生「春の断想」など。

第四十二号同年6月20日発行。扉はフリーメーソン会員の蔵書票、コンパスと定規の絵は自由と正義を表わす。森於菟「観潮楼の玄関」は森鷗外邸「玄関」の思い出。門から玄関まで

の佇まい、呼び鈴代わりの鐘、文学仲間(饗庭篁村、幸田露伴、斎藤緑雨ら)の往来、玄関番=歴代書生たちのエピソード。家庭内の事、継母との不仲も明かす。松浦一「ごろつき退治」は学問世界の非常識・非合理を語り、戦中「西村」での軍人値引き要請を明かす。兵士が将校宿泊の交渉に来て二割まけろ、と要求。貫一カチンときて、いやしくも皇国の軍人がまげるとは何事か、なぜただにしろと言わんのか、将校に伝える、と一喝。兵士は再交渉に来なかった。

第四十三号同年7月25日発行。扉絵は17世紀オランダの画家・オスタード(エイドリアン・フォン・オスターデ)の銅版画「農民」肖像。池長「自画像」は四十号「自画像」の続編。南蛮美術蒐集家として「神がかり」「天才」であり、「入手しがたい大珍品を系統だてて集めつくした」と述懐。

第四十四号同年8月29日発行。扉絵は前号に続いてオスタード「農民」銅版画。杜芳生「トアロードだより(その三)」は本号発行の3週間前に死去した母ちか(川崎正蔵の次女)のこと。大家族を束ね、厳格な母親として規則正しい一生を送った。

第四十五号同年9月26日発行。表紙の絵は五老生(増田五良)「老学徒読書の図」。扉は貫一所蔵カール・マルクスの手紙写真。「金曜雑誌」、金曜会が西村家に物質的・精神的に負担をかけているので、簡単な会則を定め、会費を徴収することにになった、と知らせる。金曜会内には、経済懇話会、婦人部、青年部があり、それぞれが催しを開いている。

第四十六号同年10月26日発行。扉の絵はデュレル(アルベルト・デューラー)の「若き使者」。貫一「マルクスの手紙」を寄稿。1932(昭和7)年、貫一は銀行家・松井和宗からロンドンみやげに「マルクスの手紙」をもらった。松井は元神戸支店長、貫一夫妻が結婚の世話をした。〈口悪の君に倫敦土産をと吾々は色々と考えた。君が古書蒐集を思い出して古書店を漁り歩いた。ゴルフの珍しい古書も見当らず困り抜いていたら、飾り窓に「最近入手。珍品」と説明つけたカール・マルクスの手筒。これだと早速購入した。君の名士の手筒蒐集に加えてくれ給え。銀行家の僕からもらったとは云わないで極秘に頼む。〉

松井帰国後、その古書店から目録が日本の顧客に届いた。大学や研究者が電報注文したところ、「姓名、国籍不明の東洋人に譲り渡した」の返答だった。共産主義者の手紙所持・贈与など公表できない時代、貫一は一度木村毅に見せただけで書庫にしまっていた。手紙は1871年6月18日付、文面に宛名なし。内容は、17日付「イースタンポスト」12部至急送付を願うもの。「タイムズ」が六月十三日ジュールス・ファヴル氏の回状に対する吾々の回答を記載したる為ロウ氏に痛烈に非難されし事を聞き及び候(貫一訳)と続く。戦後貫一は「ロウ」「ファヴル」について共産党の山辺健太郎に調査を依頼。「ロウ」は当時英国蔵相で「タイムズ」の監査委員と判明。「ファヴル」に言及なし。筆者が補足する。1864年ロンドンで第一インターナショナル(国際労働者協会)創立。マルクスが創立宣言と規約を起草した。1871年パリコミュンが蜂起し敗北、インター内ではマルクスとバクーニンらアナキストの対立が激化した時期。各国指導者にとってインターは脅威。フランスの政治家「ファヴル」が各国にインター弾圧を呼びかけた。マルクスが17日付「イースタンポスト」と「タイムズ」に反論を掲載。

貫一所有の手紙は『マルクス=エンゲルス全集』に収録されていないが、同年月日付ドイツの医師ルートヴィッヒ・クーゲルマン宛の手紙がある。事情がより解る。マルクスは各国新聞の非難に屈しない決意を述べる。「ファヴル」の弾圧表明に対し、マルクスとエンゲルスは声明をインター諸機関紙とイギリスの新聞社に送り返した。〈……われわれの返答はもともと六月一日の『タイムズ(原文傍点)』に載ったものです。この名誉ある新聞は、ボブ・ロー氏(『タイムズ(傍点)』経理部長兼取締役)からこの慎みのなさのためにお目玉をくらいました。〉註3

山辺の調査と異なるが、「ボブ」は「ロバート」の略称ゆえ、同一人物。「編集後記」に同月10日にへちまクラブ新館落成式開催のお知らせ。

第四十七号同年11月30日発行(奥付四十六号と誤記)。扉写真はインドのジャマールガリー遺跡で発見された石彫仏頭。池長「佐びずまひの記」。東灘区本山に転居。生まれ育った兵庫区門町町の屋敷、垂水五色山の別荘、会下山の正元館(牧野富太郎の植物研究所)、野崎通の紅塵荘、熊内町の住宅など思い出を語る。一枚の絵の代金になったもの、海軍に寄付したもの、空襲で焼失したもの、財産税に当てたもの、すべて池長の手から離れた。

第四十八号1953(昭和28)年2月2日発行。扉に「兵庫隊員寫真(南條新九郎、北風丈助、安田惣兵衛)」。中谷保二が「明治維新郷土資料兵庫隊巔末」寄稿。1868(明治元)年3月兵庫裁判所総督・東久世通禧(みちとみ)が兵庫津の名主・北風荘右衛門貞忠(のち正造)、同・南條新九郎、同・北風丈助に指令。「皇城接近の地たる兵庫港には速に護兵を備うる必要あれば、他地方に先んじ民兵を募り、以て兵制確立迄の海岸防禦に努むべし」。同年正月鳥羽伏見の戦いがあり、「神戸事件」直後である。「兵庫市兵隊」誕生、身元確実な兵士50名募集、荘右衛門司令、薩摩藩の小倉・竹狭が練兵指導。銃器・弾薬など使用品経費自弁が原則だが、ほぼ全額を荘右衛門が負担。4月大阪裁判所管轄となり150名に増員。同月和田岬にて操練、須磨行軍。6月居留地警備、8月兵庫港英国皇太子警備の任務につく。69(明治2)年4月廃止、解散。わずか一年の「兵庫市兵隊」活動だった。

註1 大阪大学附属図書館・小野文庫「近代書誌・近代画像データベース」  
https://kindai.nijl.ac.jp/kindais/OSONT-00029  
註2 『山口正造会見記』 西村貫一編、非売品、1942年  
註3 『マルクス=エンゲルス全集 第33巻』大内兵衛・細川嘉六監訳 大月書店、1973年  
引用文は適宜新字新かなに直した。  
写真 「金曜」表紙、35号、40号、41号、45号



# みなとMOCHiケンチクさんぽ vol.24

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会 地域まちづくり委員会

## モトコーを歩く2

前回の「モトコーを歩く」から1年と少しが経ち、あの時以来歩いてなかったモトコーを歩いてみた。1年前に歩いたときには、コロナ禍ということもあって、街もモトコーも寂しさを感じた。その後、退去が進み、もう見納めかと思って歩いた記憶がある。今回は、コロナ禍も明け、街にも人が戻りつつある中、モトコーもまばらではあるが、人の気配を感じることができた。見納めかと思っていたモトコーの原風景は少しだが所々に残っており、今回新しいモトコーとして作り変えられた場所には、お店が入り始めている。新しいモトコーの外壁が真っ黒で、前回から人を寄せ付けない雰囲気を持つことへの違和感は前回歩いた時も今回歩いた時も変わらなかった。そして、この黒い壁が長い距離で連続して、神戸の街を横断していくのかと思うと、これでいいのか、と神戸の魅力がまた失われた気がしてしまった。

新しいモトコーの中には、前のモトコーで使われていたファサードをそのまま復元させている店舗があって、新しくなることを肯定的に捉えた態度に嬉しい気持ちになった。



原風景のモトコーの通路



新しいモトコーの通路



原風景のモトコーの外観



新しいモトコーの外観



神戸駅に近いエリアには、無料の駐輪場が整備されていた。行き場のない自転車が溢れる風景をよく見かけるので、これから先の計画でも増えるかと思った。ただ、内気もあつたので、できれば、外壁は取っ払いスケスケであってほしいとも思った。所々、歩道との間に、鎖やフェンスで囲まれたアスファルト舗装の空間がある。これは、1年前から変わっていない。植栽を行うわけでもなく、ベンチでも置けそうだが、フェンスと鎖でわざと距離を作って、何になるのだろうかと期待だ。

新しいモトコーを歩いていると、地図上では、知っているはずの場所なのにふと知らない場所に来ている感覚になり、頭の中にある連続したイメージが所々欠落したかのような不安に陥る。そんなときモトコーから出て外の景色を見ると、今の位置が確認



できる。私の中のデータが更新されていく感じに気づく。私はこの感覚を以前にも持ったことがある。それは、阪神淡路大震災の火事によって焼失したエリアを歩いた時の感覚だった。高校生のころ毎日通っていた通学路が再開され、ほぼ全て新しくなったあと、久しぶりに歩いた時だった。実家から歩いて、しばらくすると地図上ではよく知っているはずなのに途中から記憶の中になどい町が現れ、少し混乱する。しばらく「今どこを歩いているのだろうか」とスマートフォンで確認したり、通りの向こうに見える見覚えのある景色を頼りに、歩き進める感覚を思い出した。



取り壊しになるあるエリアでは連続するシャッターにアートが連続し、楽しみながら歩くことができた。あと少しで見られなくなるこの風景を飾り、最後に惜しむ気持ちをイベント化するのもありなのではないかと思った。



これからも新しくなるモトコーの使い方や、もっと良くしていくためにも、一方的な開発ではなく、意見を出し合いながら、今まで以上の魅力を持った通りにしていってほしい。

阿曾 芙実 (あそ ふみ)  
阿曾芙実建築設計事務所 代表  
一級建築士  
武庫川女子大学 非常勤講師  
摂南大学 非常勤講師